



読者からの声

石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。
(編集部より)

女性医師の窓

医師として、主婦として、めざせ42.195km

木島病院 竹内 洋子

金沢マラソン、2年連続出場させていただきました。

とにかく完走(タイムは遅い・・・)することができました。医師になって今年でちょうど30年。図々しくもまだまだ若いつもりでしたが世間はそう見てくれませんよね。医師になって3年目、2年間の研修が終了し金沢医大大学院入学するとともに血液免疫内科にしました。そして結婚。仕事を持つ女性誰もが直面する「仕事と家事の両立の悩み」の始まりです。なれない家事に悪戦苦闘、受け持ち患者さんは血液疾患ですから急変することがしばしばあり夫の夕食の心配を度々していたものです。やがて子供を授かり臨月を迎えましたが患者さんが急変。大きなおなかで心臓マッサージ。見かねた後輩ドクターが代わってくれました。現在のような育児休暇制度が確立していない時代でしたから産後は2か月程で復職し二人目、三人目となれば1か月半弱で復職。教授をはじめ先輩、同僚、後輩の皆様がとても優しく迎えて下さいました。子供を持つ女医が少なく育児休暇制度が整っていなかった代わりに皆さんが温かい支援の手を差し伸べて下さいました。忘年会やバーベキュー、医局旅行(最近はないですよ)も主人、子供共々参加させていただきました。二人目の出産後は学位論文に向けての仕事がメインとなり臨床の負担を随分減らして頂き今は亡き准教授の親身なご指導により学位取得する事ができました。子供たちはいろんな方にみてもらいました。保育園、シッターさん、幼稚園、妹や叔母、主人のお義母様(福井)に泊りがけで金沢まで来てもらった事もあります。なんととっても実家の両親には本当に良くみてもらいました。夕方実家に迎えに行くと「おばあちゃんの家泊まる。帰らない」としばしばダダをこねられ「トホホ・・・」三人目が生まれた後は父の病院を夫が院長、私が副院長となり受け継ぎました。夜中に病棟の患者様が息をひきとりお見送りしていたら末っ子が泣きながら裸足で私のパジャマを抱えて病院まで(自宅は隣接)走ってくるではありませんか。びっくりするやら愛おしいやら。これらの思い出は私にはつい昨日の事のようなのですがその末っ子も22歳。私は医師になってからずっと走り続けていた(ほとんどの働く女性がそうであるように)気がします。二番目の子が小学生の時たまたま出場した親子マラソンをきっかけにロードまで走り始めました。スポーツドクターで整形外科医の夫のアドバイスをうけ年1~2回ですが10kmマラソンを、また、稀にハーフマラソンの大会に出場してきました。10年市民マラソン10kmで8位入賞したのが最初で最後。右膝を痛めて記録はできませんが夫にヒアルロン酸注射をしてもらい「ダマシダマシ走ってみれば」と励まされ無理だと諦めていたフルマラソンを完走することが出来ました。仕事もマラソンも多くの先生方、スタッフ、家族にどれだけ支えられてきた事でしょう。私は本当に恵まれていたと感謝の気持ちでいっぱいです。私のようなラッキーな環境ではない女性医師の方、沢山いらっしゃると思います。でも仕事も自分の生活もあらゆる工夫をして諦めずに続けましょう。その先にはきっと素晴らしい明日が待っていると思います。いつの時代も女は強いのです。